

ガイダンス

- ☐ 主任挨拶・物理学教室の紹介
- ☐ 履修に関する注意
- ☐ 学生生活上の諸注意

- ☐ オンライン授業について

- ☐ スタッフ紹介

「履修の手引」の重要性

「履修の手引」 → **ルールブック**（履修に関わる事項を網羅）

- 入学時のルールは、卒業するまで変わらない。注)
- 次年度以降に改訂されても、皆さんには適用されない。注)
- 一部、上級生とは異なるルールもあるので注意！

「履修の手引」を熟読することが、
学生生活を充実させることの第一歩！

注)履修の手引きの変更は、学生に有利になることなどは即時変更適応となる場合もある。

1. 全学共通 (色付き部分) p. 1-70
2. 理学部 p. 146-170
3. 物理学科 p. 157-160

「履修の手引」を参照しながら説明します。
メモ等を取りながら、注意深く聞いて下さい。

卒業要件 **124** 単位以上

学士の学位取得(卒業)要件を満たさなければならない
 全学で定められた必修科目
 各学科で定められた必修科目

- *1 必修科目：情報リテラシー実践Ⅰ
 - *2 必修科目は標準履修課程表を参照のこと
 - *3 一部の科目は卒業単位に含めない。(詳しくは物理学科「履修上の注意」を参照)
 - *4 専門教育科目群理系基礎科目の選択必修を除く
 - *5 早期卒業の場合は必修44単位、選択必修科目24単位以上
- ※未修言語科目：第二群と第三群を合わせて8単位まで算入可
 ※第四群言語科目、単位互換科目及び分野横断プログラムの科目は、卒業単位には含まない

1年間に履修登録できる単位の上限 50 単位
 (※ ただし教職科目は除く)

前・後期のバランス大事
 (前期に登録し過ぎないこと！)

以降のスライドで説明

		卒業要件	
全学共通科目	基礎科目群	基礎ゼミナール	2単位
		情報リテラシー実践	2単位以上(*1)
		実践英語	8単位
		未修言語科目	
	理系共通基礎科目	理系基礎科目の選択必修と合わせて14単位以上(*2、*3)	
		保健体育科目	
		キャリア教育科目	
	教養科目群	都市・社会・環境	
		文化・芸術・歴史	
		生命・人間・健康	
		科学・技術・産業	
		総合ゼミナール	
	基盤科目群	人文科学領域	
		社会科学領域	
		自然科学領域	
		健康科学領域	
専門教育科目群	理系基礎科目	6単位以上(*2)	74単位以上(*4)
	必修科目	42単位(*2、*5)	
	選択必修科目	26単位以上(*5)	
	他学部・他学科の専門教育科目		

- *1 必修科目：情報リテラシー実践Ⅰ
 - *2 必修科目は標準履修課程表を参照のこと
 - *3 一部の科目は卒業単位に含めない。(詳しくは物理学科「履修上の注意」を参照)
 - *4 専門教育科目群理系基礎科目の選択必修を除く
 - *5 早期卒業の場合は必修44単位、選択必修科目24単位以上
- ※未修言語科目：第二群と第三群を合わせて8単位まで算入可
 ※第四群言語科目、単位互換科目及び分野横断プログラムの科目は、卒業単位には含まない

物理学標準履修課程表

区 分		1 年前期	単位	1 年後期	単位	2 年前期	単位	2 年後期	単位
全学共通科目群	基礎ゼミナール (必修)	基礎ゼミナール	1 年			2 年			
	情報リテラシー実践	情報リテラシー実践 I (必修)							
	言語科目	実践英語 (必修)		実践英語 I a	1	実践英語 II a	1	実践英語 II b	1
				実践英語 I c	1	実践英語 II c	1	実践英語 II d	1
	未修言語科目	第二群言語科目 (通年) を推奨する			8				
	理系共通基礎科目	必修科目		微分積分 I	2				
				線形代数 I	2				
	選択必修科目					解析入門 I	2		
	(専門教育科目群理系基礎科目の選択必修科目と合わせて 6 単位以上選択必修)								
	保健体育科目								
専門教育科目群	キャリア教育科目								
	教養科目群	1 科目	2	2 科目	4	2 科目	4	2 科目	4
	基盤科目群	(教養科目群・基盤科目群・キャリア教育科目から合計14単位以上選択必修)							
専門教育科目群	理系基礎科目	必修科目		力学 I	2	力学 II	2	物理学実験第一	2
		選択必修科目		化学概説 I	2	化学概説 II	2	生物学概説 I A	2
	(理系共通基礎科目選択必修科目の単位に合算)								
	必修科目			物理学演習 I	2	物理学演習 II	2	電磁気学 I	2
				物理数学基礎	2	熱・量子基礎	2	電磁気学 II	2
						解析力学	2	量子力学 I	2
						物理学演習 III	4	物理学演習 IV	4
	選択必修科目			物理セミナー	2	物理数学 I	2	物理学実験第二	2
						物理数学演習	2	物理数学 II	2
								物理測定法	2

区 分		3 年前期	単位	3 年後期	単位	4 年前期	単位	4 年後期	単位
専門教育科目群	必修科目	熱・統計力学 I	3 年			物理学特別研究 I	4 年	特別研究 II	4
		物理学実験第三							
	選択必修科目	量子力学 II	2	量子力学 III	2	一般相対論 *	2	流体力学 *	2
		物理学演習 V	4	熱・統計力学 II	2	原子核物理学 *	2	物性物理学 II *	2
		連続体基礎	2	物理学演習 VI	4	原子物理学 *	2		
		物性物理学基礎 I	2	物性物理学基礎 II	2	粒子線物性 *	2		
		物理情報処理法	2	計算物理学 *	2	物性物理学 I *	2		
		特殊相対論	2	宇宙物理学 *	2	素粒子物理学 *	2		
				光学	2				
				原子核・素粒子	2	物理学特殊講義 A	1		
				物理学実験第四	4	物理学特殊講義 B	2		
				現代物理学序論	2	物理学学外体験実習	1		

□ 4年生(卒業研究生=物理学特別研究の受講)になる条件

106 単位以上

【内必修科目**46**単位、選択必修**12**単位以上】 (p. 151)

□ 学士の学位取得(卒業)要件

124 単位以上

【内必修科目**56**単位、専門科目群選択必修**26**単位以上】

4 年生は、結構忙しい！

- ・ 卒業研究やゼミ
- ・ 院入試の勉強、または就職活動
- ・ 海外派遣
- ・ 教育実習・介護実習(教職課程等を履修する人)

卒業要件 **124** 単位以上

学士の学位取得(卒業)要件を満たさなければならない
 全学で定められた必修科目
 各学科で定められた必修科目

- *1 必修科目：情報リテラシー実践Ⅰ
 - *2 必修科目は標準履修課程表を参照のこと
 - *3 一部の科目は卒業単位に含めない。(詳しくは物理学科「履修上の注意」を参照)
 - *4 専門教育科目群理系基礎科目の選択必修を除く
 - *5 早期卒業の場合は必修44単位、選択必修科目24単位以上
- ※未修言語科目：第二群と第三群を合わせて8単位まで算入可
 ※第四群言語科目、単位互換科目及び分野横断プログラムの科目は、卒業単位には含まない

1年間に履修登録できる単位の上限 50 単位
 (※ ただし教職科目は除く)

前・後期のバランス大事
 (前期に登録し過ぎないこと！)

以降のスライドで説明

		卒業要件	
全学共通科目	基礎科目群	基礎ゼミナール	2単位
		情報リテラシー実践	2単位以上(*1)
		実践英語	8単位
		未修言語科目	
	理系共通基礎科目	理系基礎科目の選択必修と合わせて14単位以上(*2、*3)	
		保健体育科目	
		キャリア教育科目	
	教養科目群	都市・社会・環境	
		文化・芸術・歴史	
		生命・人間・健康	
		科学・技術・産業	
		総合ゼミナール	
	基盤科目群	人文科学領域	
		社会科学領域	
		自然科学領域	
		健康科学領域	
専門教育科目群	理系基礎科目	6単位以上(*2)	74単位以上(*4)
	必修科目	42単位(*2、*5)	
	選択必修科目	26単位以上(*5)	
	他学部・他学科の専門教育科目		

- *1 必修科目：情報リテラシー実践Ⅰ
 - *2 必修科目は標準履修課程表を参照のこと
 - *3 一部の科目は卒業単位に含めない。(詳しくは物理学科「履修上の注意」を参照)
 - *4 専門教育科目群理系基礎科目の選択必修を除く
 - *5 早期卒業の場合は必修44単位、選択必修科目24単位以上
- ※未修言語科目：第二群と第三群を合わせて8単位まで算入可
 ※第四群言語科目、単位互換科目及び分野横断プログラムの科目は、卒業単位には含まない

キャリア教育科目、教養科目群、基盤科目群の科目一覧

キャリア教育科目					
キャリア形成	キャリア形成演習	現場体験型 インターンシップ	学びのデザイン： 理論と実践	ボランティアと リーダーシップ	国際交流概論

教養科目群				
都市・社会・環境	文化・芸術・歴史	生命・人間・健康	科学・技術・産業	総合ゼミナール
アジア・アフリカ社会論 社会と福祉 生活と福祉 日本国憲法 情報社会と法 都庁の仕組みと仕事 官庁の仕組みと仕事 生態と環境 動物の生態と多様性 自然と社会と文化 地域環境の人文地理 都市空間の人文地理 都市の技術 エネルギー化学入門 環境調和化学入門 観光科学概論 Tourism theories and practice 多摩の里山学 都市政策科学概論 社会と経営 特定社会活動 Sustainability Studies and Global Environmental Governance Japanese Nature and Satoyama Current Issues of Education in Japan Comparative and International Higher Education Globalization, Culture and Society	社会意識と社会構造 心の哲学 西洋古典学 A 西洋古典学 B 都市の歴史 日本の歴史と社会・文化 アジアの歴史と社会・文化 西洋の歴史と社会・文化 文明と歴史 歴史学入門 考古学入門 表象文化論基礎 文学概論 日本語と日本文学 A 日本語と日本文学 B アジアの言語と文化 A アジアの言語と文化 B 英語圏の文化 ドイツ語圏の文化 フランス語圏の文化 植物の多様性と進化 進化生物学 科学史 B 日本語と社会と文化 Japanese Language and Society The Japanese Language Global Mindset Intercultural Communication and Interaction Japanese Language Education in Japan : Comparison between KOKUGO and NIHONGO	臨床心理学概論 心の科学 ことばの科学 生命を支える化学物質 現代社会・化学の役割 細胞の世界 ゲノム科学 神経生物学 人間生物学 先端生命化学入門 スポーツ・健康と脳科学 エクササイズ科学 健康スポーツ科学 健康の栄養学 行動生理学 生活習慣と栄養 認知と行動 生体機能調節学	科学哲学 地球環境と人類の歴史 日本の産業と企業 現代物理学の考え方 素粒子から宇宙 科学史 A 宇宙地球物質の化学 現代分子科学 バイオテクノロジー 大気と水の循環を学ぶ 大地の成り立ちを探る 自然災害と社会 ツーリズム産業論 人工物のテクノロジー 生体と機械 デザインと生活 教養としてのデータサイエンス ナノテクノロジー：作る、見る、使う The Utilization of ICT in the Teaching and Learning of Language	総合ゼミナール

合計 **14** 単位以上
(選択必修)

1科目(2単位) ⇒ 最低 **7** 科目

基盤科目群			
人文科学領域	社会科学領域	自然科学領域	健康科学領域
人間・文化・社会 言語・思考・行為 社会学 A 社会学 B 文化人類学 A 文化人類学 B 社会福祉学 心理学概論 心理学研究法 教育学 哲学 A 哲学 B 倫理学 A 倫理学 B 論理学 A 論理学 B	法学入門 民事法入門 刑事法入門 政治理論入門 現代政治入門 入門マクロ経済学 入門ミクロ経済学 経済史・思想入門 経営学入門 会計学入門 統計学 I 統計学 II デザインマネジメント概論	数学の歴史 計算の理論 現代的教養のための確率統計 建築文化論 環境と建築 情報科学入門 エアフレームデザイン概論	人間発達学 医療統計学 移動の人間工学 医療と情報 保健医療概論 リハビリテーション概論

物理学標準履修課程表

区		分		1 年前期	単位	1 年後期	単位	2 年前期	単位	2 年後期	単位
全学共通科目	基礎科目群	基礎ゼミナール (必修)	基礎ゼミナール	2							
		情報リテラシー実践	情報リテラシー実践Ⅰ(必修)	2							
		言語科目	実践英語 (必修)	実践英語Ⅰa	1	実践英語Ⅰb	1	実践英語Ⅱa	1	実践英語Ⅱb	1
				実践英語Ⅰc	1	実践英語Ⅰd	1	実践英語Ⅱc	1	実践英語Ⅱd	1
		未修言語科目	第二群言語科目 (通年) を推奨する				8				
		理系共通基礎科目	必修科目	微分積分Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2				
				線形代数Ⅰ	2	線形代数Ⅱ	2				
		選択必修科目					解析入門Ⅰ	2			
	(専門教育科目群理系基礎科目の選択必修科目と合わせて 6 単位以上選択必修)										
		保健体育科目									
	キャリア教育科目										
	教養科目群	1 科目	2	2 科目	4	2 科目	4	2 科目	4		
	基盤科目群	(教養科目群・基盤科目群・キャリア教育科目から合計14単位以上選択必修)									
専門教育科目群	理系基礎科目	必修科目	力学Ⅰ	2	力学Ⅱ	2	物理学実験第一	2			
		選択必修科目	化学概説Ⅰ	2	化学概説Ⅱ	2	生物学概説ⅠA	2	生物学概説ⅡA	2	
	(理系共通基礎科目選択必修科目の単位に合算)										
	必修科目	物理学演習Ⅰ	2	物理学演習Ⅱ	2	電磁気学Ⅰ	2	電磁気学Ⅱ	2		
		物理数学基礎	2	熱・量子基礎	2	解析力学	2	量子力学Ⅰ	2		
					物理学演習Ⅲ	4	物理学演習Ⅳ	4			
				物理数学Ⅰ	2	物理学実験第二	2				
選択必修科目	物理セミナー	2			物理数学演習	2	物理数学Ⅱ	2			
物理測定法											2

区	分	3 年前期	単位	3 年後期	単位	4 年前期	単位	4 年後期	単位
専門教育科目群	必修科目	熱・統計力学 I	2			物理学特別研究 I	4	物理学特別研究 II	4
		物理学実験第三	4						
	選択必修科目	量子力学 II	2	量子力学 III	2	一般相対論 *	2	流体力学 *	2
		物理学演習 V	4	熱・統計力学 II	2	原子核物理学 *	2	物性物理学 II *	2
		連続体基礎	2	物理学演習 VI	4	原子物理学 *	2		
		物性物理学基礎 I	2	物性物理学基礎 II	2	粒子線物性 *	2		
		物理情報処理法	2	計算物理学 *	2	物性物理学 I *	2		
		特殊相対論	2	宇宙物理学 *	2	素粒子物理学 *	2		
				光学	2				
				原子核・素粒子	2	物理学特殊講義 A	1		
				物理学実験第四	4	物理学特殊講義 B	2		
				現代物理学序論	2	物理学学外体験実習	1		

「履修上の注意」 (p. 151)

□ 履修のモデルプラン

物理は積み上げ型

□ 指定年次に履修

物理学必修 23 科目

□ 物理学実験第一
物理学実験第二
物理学実験第三
物理学実験第四

(※原則)

順番に履修

□ 卒業の遅れにつながる

□ 演習：講義とリンク

□ 原則、同時に履修する

□ □内の数字の合計は 114 単位

卒業単位 124 単位 より少ないので
各自必要な単位を修得する必要がある。

48

物理学科標準履修課程表

区 分		1年前期	単位	1年後期	単位
全学共通科目	基礎ゼミナール (必修)	基礎ゼミナール	2		
	情報リテラシー実践	情報リテラシー実践I (必修)	2		
	言語科目	実践英語 (必修)	実践英語 I a	実践英語 I b	1
			実践英語 I c	実践英語 I d	1
	未修言語科目	第二群言語科目 (通年) を推奨する			8
	理系共通基礎科目	必修科目	微分積分 I	微分積分 II	2
			線形代数 I	線形代数 II	2
	選択必修科目				
		(専門教育科目群理系基礎科目の選択必修科			
	保健体育科目				
全学共通科目	キャリア教育科目				
	教養科目群	1科目	2	2科目	4
基盤科目群		(教養科目群・基盤科目群・キャリア教育			
専門教育科目群	理系基礎科目	必修科目	力学 I	力学 II	2
		選択必修科目	化学概説 I	化学概説 II	2
	(理系共通基礎科目選択必				
	必修科目	物理学演習 I	2	物理学演習 II	2
		物理数学基礎	2	熱・量子基礎	2
専門教育科目群	選択必修科目	物理セミナー	2		

青枠内の全科目の合計 48 単位

履修登録単位の上限

年間 50 単位 (p. 142)

注意点

前期と後期の合計

(前期に申請し過ぎない)

教職科目などの例外あり

Webでの入力に注意

p.3

[参考] 文部科学省の取り決め

1単位 = 30時間の自学自習

50単位 = 毎日6時間の自学自習

(50 x 30 h/240day = 6.25 h/day)

4年間の単位修得ペース

- 物理学科では、3年までは自動的に上がることができる。
 - ・ただし **年平均で20単位** 取らないと成績不振者扱い
面談等を行った上、**命令退学の制度** が適用される場合がある。(p4, 5)
- 4年生(卒業研究生=物理学特別研究の受講)になる条件
106 単位以上 【内必修科目**46**単位、選択必修**12**単位以上】 (p. 147)
- 学士の学位取得(卒業)要件
124単位以上 【内必修科目**56**単位、専門科目群選択必修**26**単位以上】
(p. 147)

※ 詳しい条件は省略しますので、「履修の手引」をよく読むこと

3年終了と同時に大学院進学(**早期卒業**)も可能

ギリギリを狙わないこと！もったいない！留年の危険！
意外にもよくある問題

3年修了 → 大学院 1 年 (入学)

2年次までの成績が優秀: **GPA 3.50** 以上なら予備申請可
3年次の最初に予備申請 → 特別の履修指導
大学院入学試験に合格、あるいは口頭試問

GPA とは？ (p. 62, 63)

Grade Point Average

次のスライドで説明

Grade Point Average

成績	Grade Point	単位	成績評価基準	100点法 (目安)
5	4.0	○	到達目標を十分に達成し、きわめて優秀である。	90点以上
4	3.0	○	到達目標を十分に達成している。	80～89点
3	2.0	○	到達目標を達成している。	70～79点
2	1.0	○	到達目標を最低限達成している。	60～69点
1	0.0	×	到達目標を達成していない。	59点以下
0	0.0	×	評価の対象とならない。	

$$\text{GPA} = \frac{\text{〔(科目の単位数) × (その科目で得たGrade Point)〕の総和}}{\text{(履修登録した単位数)の総和}}$$

(小数点第3位以下で切捨て)

- ☑ 試験で落ちても、途中で放棄しても **GP = 0**
- ☑ 履修申請して、途中で放棄すると **GPA** としては損
- ☑ **GPA** を意識し過ぎて、せっかくの学びの機会を無駄にしないこと

GPAが使用される場面

- ・ 早期卒業
- ・ **研究室配属** (卒業研究テーマ・進路に関わる)
- ・ **大学院入試の筆記試験免除**
- ・ 研究等に関わる海外派遣
- ・ 最優秀学生の表彰
- ・ **就職活動** → 企業側の判断材料として使われる場合がある

履修取消制度

授業内容が、学修したいと思っていた内容と異なっていた場合や、授業を理解する上で必要となる知識が不足していた場合に、学期途中のあらかじめ定められた期間に履修登録の取消しを可能とする。ただし、取消しと同時に別の科目を履修登録することはできない。また、履修取消は、無制限に認められるわけではないので注意すること。詳細は掲示により周知する。 **理系共通科目や必修科目等を除く2科目**

制度の対象となる授業科目
全学共通科目

教養科目群（総合ゼミナールは除く）、基盤科目群、キャリア教育科目、保健体育科目（身体運動学のみ）のうち、集中講義以外の授業科目が対象となる。ただし、キャリア教育科目のうち、現場体験型インターンシップは、やむを得ない事情であると大学が認めた場合に限り、取消し可能とする。その他の対象科目、取消し可能な科目数、申請日程等の詳細については、教務課の掲示を確認すること。

専門教育科目

学部によって実施の有無等が異なるため、学部及び教務課の掲示を確認すること。

**履修登録単位の上限
との関係について**

本制度を利用して履修を取消した科目の単位数は、当該年度の履修登録単位数には含まれない。

物理学の専門科目は履修取り消しできない！

**その他履修取消可能な
場合について**

新規開講科目（P. 9 参照）を履修するために、これと同じ曜日・時限に履修中の科目の登録を取り消す場合は、担当教員の許可があれば、取消し可能である。

また、集中授業の日程が公開された後、履修中の科目の日程が重複する場合は、定められた期間に限り、取消し可能である。

集中授業の日程重複による取消期間は掲示により周知する。

履修指導の対象者

成績不振者に対する措置

入学後の通算修得単位数が、在学年数別最低修得単位数に満たない場合は、年度末に履修指導を受ける。その単位数は、下表のとおりである。

ただし、休学期間のある者の在学年数は、休学期間を除いて通算される。

在学年数別最低修得単位数

在 学 年 数	1 年	2 年	3 年	4 年以上
最低修得単位数	20単位	40単位	60単位	80単位

命令退学

以下の要件に該当する者は、成業の見込みなしとして、年度末に退学を命じる（命令退学）。

(1) 入学後の通算修得単位数が、在学年数に応じ、下表に示す単位数に満たない者。

ただし、休学期間のある者の在学年数は、休学期間を除いて通算される。

在 学 年 数	2 年	4 年	6 年
通算修得単位数	30単位	60単位	90単位

(2) 入学後 6 年を経過し、年次修了判定により 3 年次に進級できない者。

(3) 入学後 7 年を経過し、年次修了判定により 4 年次に進級できない者。

成績・履修について



学問の力で、東京から世界の未来を拓く

文字サイズ：

標準

拡大

ENHANCED BY Google



English

中文

한글

交通アクセス 資料請求 お問い合わせ窓口

入学希望の方へ

在学の方へ

卒業生の方へ

企業・研究者の方へ

地域・一般の方へ

東京都立大学について

教育
学部・大学院

研究・産学公連携

国際展開・留学

学生生活

キャリア・就職

入試案内

在学の方へ

「首都・東京」で学び、日本をけん引するイノベーションを生み出す。
在学生の皆様の未知なる発見を応援します。

トップ

在学の方へ

教育情報、学生生活、進路・キャリアなどの在学生の皆様へ向けた情報がご覧いただけます。

関連リンク

文系事務室サイト

文系管理課・学務課

理系事務室サイト

理系管理課・学務課（学内のみアクセス可能ページです）

教育研究用情報処理システム

（要ID）ネットワーク、電子メール、無線LAN等の利用について

CAMPUS SQUARE for WEB（事務情報システム）

（要ID）成績・履修等

東京都立大学について

学則・規則

イベントカレンダー

附属機関や施設をお探しの方

学費・奨学金等をお調べの方

本学へのご支援をお考えの方

本学への取材・撮影をご希望の方

キャンパス見学をご希望の方

教育 ー学部・大学院ー

インターンシッププログラム

初年次向けプログラムや専門教育科目としてのインターンシッププログラムなど

他大学等の授業科目の履修

本学の授業科目の体系的な学修を基本としつつ、同大学等の授業科目も本学の単位修得とみなす制度で

FD委員会（東京都立大学のFD活動）について

教員が授業内容、方法を改善し向上させるための経路の紹介

成績・履修について

成績・履修



CAMPUSSQUARE(V55)へようこそ

アカウントをお持ちの方はユーザ名とパスワードを入力してログインしてください。

Welcome to CAMPUSSQUARE

The people with account need to enter a user name and a password, and need to log in.

ユーザー名

パスワード

ログイン

▶ English

▶ スマホ版

半期(前・後期)ごと
成績は保証人にも通知

特別な履修申請・登録について

《1年次に関係するものをピックアップ》

抽選・先着順：基礎ゼミナール (p. 13)

自動登録：情報リテラシー実践Ⅰ (p.14 - 15)

第一言語科目 (必修) (p.16 - 30)

クラス指定科目(p.9 - 10)：

学修番号順又はコース別にクラス編成を行い、
定められた曜日・時限の指定されたクラスで受講(履修)する

情報リテラシー実践Ⅰ (p.14 - 15)

微分積分、線形代数(数理科学コース提供)

一般化学、化学概説、化学実験(化学コース提供)

} (p.31-35)

「履修申請カード」により履修申請する科目 (p. 9)

化学実験 = 自然化学実験(化学) 教職科目

→今年度はweb申請

化学実験（自然科学実験(化学)）について

物理は1年次に履修

「自然科学実験(化学)」→「中学校一種免」の必修科目

※ 教職志望の人は「化学実験」ではなく、上記の科目名で申請すること。
(授業番号が異なるので注意！)

クラス指定：cクラス

オンラインと夏季集中を併用して実施予定
前期の後半から対面式が可能となれば、夏季集中はやめて、通常の時間割で行う。

物理セミナー（水曜5限 第6回はビデオ教材）

物理学教室の先生による最先端の研究紹介
必修ではないが（選択必修）原則、履修すること。

- 5/13 宇宙の歴史（宇宙理論、藤田）
- 5/20 X線 γ 線で見える宇宙（宇宙物理実験、石崎）
- 5/27 The dark side of the Universe（高エネルギー理論、ケトフ）
- 6/03 宇宙と原子（原子物理実験、田沼）
- 6/10 極低温の世界～超流動現象～（量子凝縮系理論、荒畑）
- 6/10 日常にあふれる物理とソフトマター（ソフトマター、栗田）（ビデオ教材）
- 6/17 偶然と必然の物理学（非線形物理、首藤）
- 6/24 物性物理入門（粒子ビーム物性、門脇）
- 7/01 物理学とナノサイエンス（ナノ物性、宮田）
- 7/08 構造と物性（表界面光物性、柳）
- 7/15 新しい超伝導体の探索（超伝導物質、水口）
- 7/22 相転移・臨界現象（強相関電子論、服部）
- 7/29 ミクロの世界を探索～素粒子実験のいま～（高エネルギー実験、角野）
- 8/05 素粒子論入門（素粒子理論、安田）
- 8/12 強い相互作用の世界（原子核ハドロン、兵藤）

教員免許と学芸員資格

履修の手引 別冊「教職課程の履修概要」

p. 2-10, p. 29-30

毎年度、4月当初の教職ガイダンスに参加すること。

履修希望者は、教務課の「教職」の掲示を確認すること。

履修の手引 別冊「学芸員資格取得要領」

p. 53-60（詳細は教務課に相談）

博物館実習受講に関するガイダンスに参加すること。

両者とも標準履修課程表にないたくさんの単位修得が必要。

年間50単位の制限外となる場合がある。

※教育実習には、「学生教育研究災害傷害保険」と「学研災付付帯賠償責任保険」（どちらも学生課で対応）の加入、定期健康診断の受診が必須。教職を取らない人も、保険の加入を強く推奨する。

公職選挙法の改正 ・ 住民票の異動について



進学や就職などで引っ越しをされた方は、原則、現在住んでいる**寮・アパート等が住所地**になります。

住民票は、**選挙人名簿**などの各種の**登録**や**行政サービス**につながる大切な情報ですので、忘れずに移しましょう。

転出・転入の手続きは**簡単**です！

引っ越し前の
市区町村

《転出前》

転出届を提出し、
転出証明書を受け取る



引っ越し後の
市区町村

《転入した日から14日以内》

転出証明書を添えて、
転入届を提出

- 転入届の際には、記載事項の変更のため、マイナンバーの「通知カード」や「マイナンバーカード(個人番号カード)」をお持ちください！

引っ越しをされる方は**注意**が必要です！

選挙で投票する場所は、原則として**住民票のある市区町村**です。

異なる市区町村に転出した方で、**住民票を移していない**、又は**住民票を移して3カ月経過していない**場合は、**新しい住所地で投票できません**。

試験の受験上の注意事項

- 試験場への入室がみとめられるのは試験開始から30分まで
- 試験中は学生証を机上に提示すること
- 携帯電話、スマートフォンは電源を切ること
- 試験時に以下の行為をすると不正行為になります
 - (1) 本人以外の代理受験、偽名記入
 - (2) カンニングペーパー等の所持、机上等への書き込み
 - (3) 問題用紙及び答案用紙の見せ合い、交換
 - (4) 話し合い、のぞき見、わき見、私語
 - (5) 持込みが許可されていない物件の持込み
 - (6) 持込み許可物件の貸し借り

レポート作成時の注意事項

- ・他人の文章を調べて書き写す場合には引用する

正しい引用方法

- ・他人の文章を丸写し(コピペ)する場合には「」でくくり注釈をつける
- ・他人の文章をまとめ直した場合でも必ず注釈をつける
- ・図やデータも他人のものを利用する場合には注釈をつける

例

「全宇宙にある全部の星雲に対し等速直線運動を行い,回転しない座標系は慣性系である」⁽¹⁾

(1)原島鮮 力学 裳華房 2章

出典がウェブサイトの場合には
著者名、タイトル、アドレス、アクセスした日付をつける

レポート作成時の注意事項

- ・正しく引用されていない場合は**盗用**または**剽窃**とみなされる

盗用または**剽窃**とみなされる**行為**

1. 書物・ウェブサイト等に掲載された他人の文章を出典を明記せずにレポート等に記載すること
2. 他人が作成したレポート等を自分が作成したようにして提出すること

ウェブサイト等に掲載された他人の文章をコピーしてレポートを作成することは剽窃です

試験におけるカンニングと同様の**不正行為**ですし、同様に処分されます

不正行為における処分

1. 学則による懲戒

- (1) 退学
- (2) 停学（修業年限の不足により、4年間では卒業できなくなる。）
- (3) 訓告

2. 教務上の制裁措置（例）

- (1) 当該科目の履修申請を無効とする。
- (2) 当該学期に受講および受験した全科目の履修申請を無効とする。
- (3) 当該学年に受講および受験した全科目の履修申請を無効とする。

不正行為をすると4年での卒業は難しい